



気になるアレ、
実際、どんだけお金掛かるの!?

〇〇のお値段

女が自由なのか、男の稼ぎが悪いのか。日本人の晩婚化が止まらない。男も女も「婚活サイト」に登録し、ネット経由で未来の相手を探すのがトレンドだ。Web時代の仲人「婚活サイト」。はたして費用はいかほど必要なのか?

第13回 + 婚活サイトのお値段 =

© Nicola Di Nozzi - Fotolia.com

× 楽天、イオン、ヤフー…… 大手が目立つ婚活業界

様々なメディアでとりあげられ、今や一般的な言葉としてすっかり定着した感のある「婚活」。元々は社会学者の山田昌弘氏とジャーナリストの白河桃子氏の共著『婚活』時代(ディスカヴァー携書)から生まれた造語。就職するために就職活動が必要のように、結婚するために結婚活動(婚活)が必要というわけだ。

昔のように適齢期になると会社の上司が「いい相手がいるんだがどうかね」なんて話をもちかけてくれる時代ではない。価値観の多様化や女性の社会進出、不景気による男性の所得低下など、様々な社会的要因が絡み合っただけで本は空前の晩婚化。結婚したくてもできない時代であることは間違いない。そんな時代背景に起因してか、結婚したい男女をくつつけるための「婚活サイト」が人気だ。晩婚化とWeb時代の共生ともいえるべきこのシステム。はたしてどの程度のお金が必要なのだろうか。

一言で「婚活」といっても定義はあいまい。結婚相手を見つけ出すということとは、突き詰めればいい男(女)をつかまえること。俗にいう「出会い系」との境があやふやな怪しいサイトも少なくない。明らかにその方面と思われるサイトを除外してネット上から拾い出してみると、意外にも大手が多く参入していることがわかる。楽天グループの

「オーネット」や、イオングループの「ツヴァイ」などの本格派をはじめ、ヤフー・ジャパンの「縁結び」のような緩いコミニティサイトも存在する。会によりシステムは異なるものの、入会から結婚までの手順は概ね以下の通りだ。

- ・資料請求で内容相談、入会登録
- ・スタッフやWeb経由で相手選び
- ・主催のパーティーなどに参加
- ・実際、結婚

気になる経費だが、東京23区勤務の年収600万円以上の男性が登録できる『アルパ青山』(東京都港区)の「セレブリティコース」(医師・歯科医師等に限定して優先紹介)を例に見てみよう。

÷ 入会15万円、成婚時30万 しめて年間99万円也

まずは入会時に入会金3万円とシステム登録料が12万円必要。月会費は1万5千円で、「平均的な登録期間」は1年程度です(小山礼子社長)とのことなので、×12カ月で18万円。会主

催のお見合いは一回につき1万円で「平均で1カ月3人位とお見合いする」(同)ため、年間で1万円×3人×12カ月=36万円。最終的にめでたくゴールインできた時には成婚料として30万円が必要となる。これらを合計すると、結婚までにかかる年間費用は99万円。実際、「当社の成婚会員の平均額は100万円前後です(同)とのこと。ちよつとネットで彼女(彼氏)見つけてみよう、なんて遊び半分な気持ちで手を出す世界ではなさそう。

成婚料を一切とらない会もあるが、「それだと成婚しても社の利益にならないので紹介だけで終わってしまう傾向が強い。安ければいいとも限らない(結婚専門誌ライター)という声も。また「価格を明記していない会は年会費一括支払いが多く、払ってしまえばあとは放置というトラブルも多い」(同)ので注意が必要だ。入会前にシステムを綿密に調べ、複数のサイトを比較検討して決定するのが賢明なようだ。

婚活サイトの内訳

『アルパ青山』のセレブリティコースで入会1年後に成婚した場合の一例

- ・入会金=3万円
- ・システム登録料=12万円
- ・月会費1万5千円×12カ月=18万円
- ・お見合い1回・1万円×3人×12カ月=36万円
- ・成婚料=30万円

計
99万円

※デート費用や交通費などの経費は一切含まれません